

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第40週の発生動向

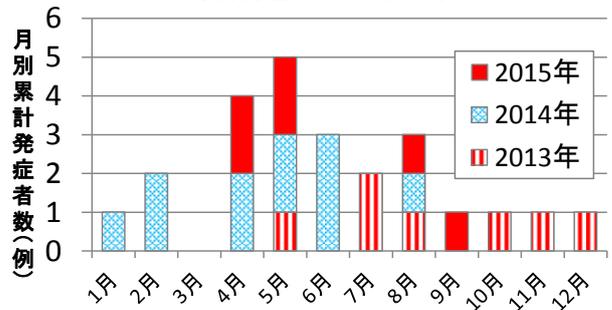
トピックス

・**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)** (全数報告の感染症) の届出が高鍋保健所管内から1例あった。県内での報告は今年6例目、累計25例目となった。患者は30歳代男性で、9月上旬に発症した。ダニの刺し口は確認できず、海外渡航歴はなかった。

SFTS年齢群別報告数

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代~
1	1	2	6	6	8	1

SFTS月別発症者数 (届出開始以降)



全数報告の感染症 (40週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症1例。
4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例。5類感染症：破傷風1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	都城	70歳代	男	肺結核	咳、痰、胸痛
		高鍋	70歳代	女	肺結核	痰
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	5~9歳	男	—	症状なし、O血清群不明(VT1産生)
4類	重症熱性血小板減少症候群	高鍋	30歳代	男	—	発熱、筋肉痛、下痢、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少
5類	破傷風	宮崎市	80歳代	女	—	開口障害、嚥下障害 破傷風ワクチン接種歴：不明

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は666人(定点当たり25.8)で、前週比185%と大幅に増加した(前週祝日含む)。前週に比べ増加した主な疾患は流行性耳下腺炎と流行性角結膜炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

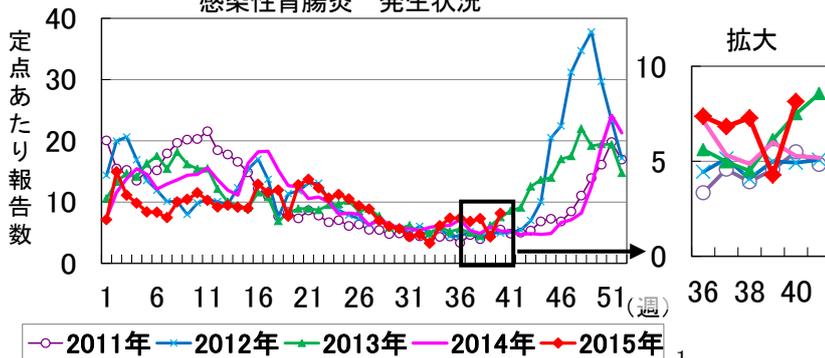
★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【感染性胃腸炎】

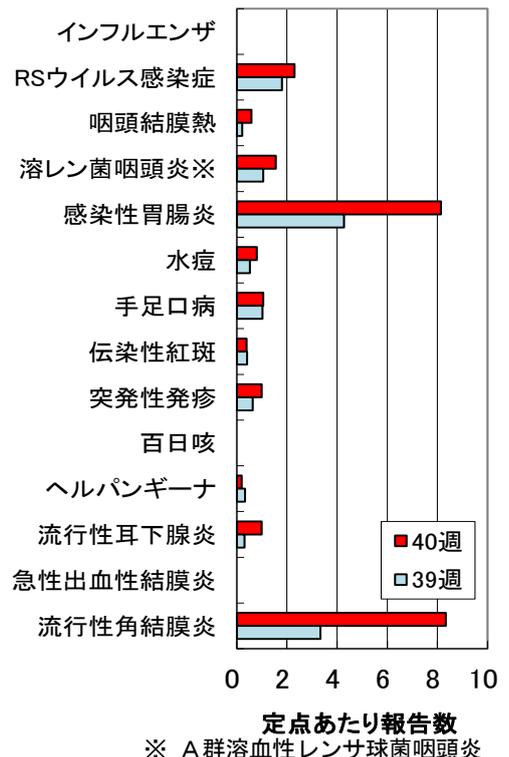
・報告数は293人(8.1)で、前週比190%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(5.7)の約1.4倍であった。年齢別では6カ月~4歳が全体の約6割を占めた。

*過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値。

感染性胃腸炎 発生状況



《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

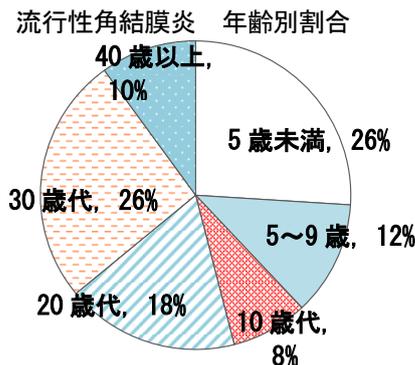
【流行性耳下腺炎】

・報告数は36人(1.0)で、前週比327%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(1.1)の約0.9倍であった。小林(5.7)、延岡(3.3)保健所からの報告が多く、年齢別では5~7歳が全体の約6割を占めた。

★眼科定点からの報告★

【流行性角結膜炎】

・報告数は50人(8.3)で、前週比250%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(2.5)の約3.4倍であった。流行警報開始基準値レベル(8.0)を超過した。年齢別報告数は下図参照。

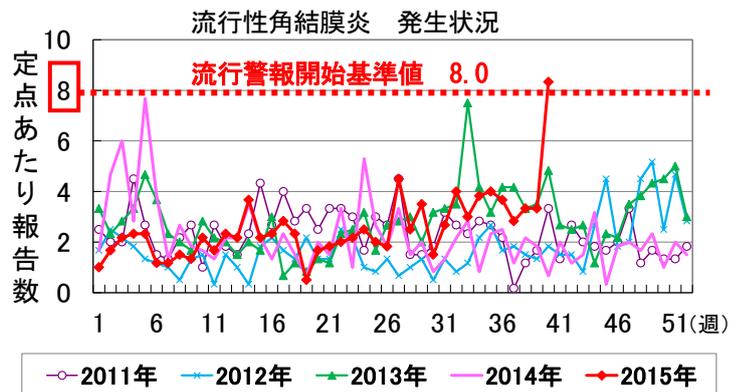
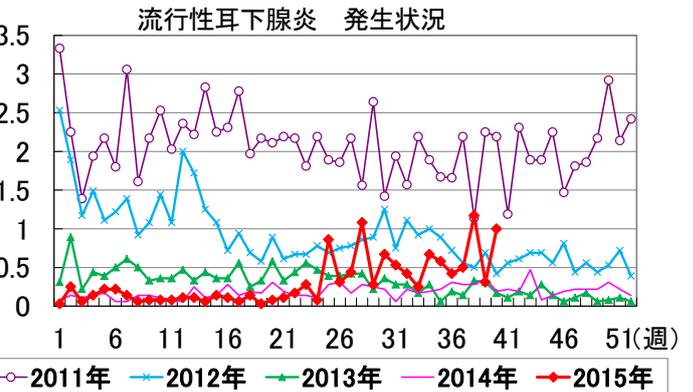


★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所管内で2例、日南保健所管内で1例報告があった。1~4歳が2例、5~9歳が1例で、いずれも *Mycoplasma pneumoniae* が検出された。

★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	流行性角結膜炎(8.0)
都城	流行性角結膜炎(8.5)
延岡	流行性耳下腺炎(3.3)、流行性角結膜炎(9.0)
日南	なし
小林	流行性耳下腺炎(5.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし



* 流行警報レベル開始基準値*

・流行性角結膜炎(8.0)

* 流行注意報レベル基準値*

・流行性耳下腺炎(3.0)

□ 病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成27年10月5日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(O103:H7)	5~9歳	男	2015.9.8	発熱(38.2℃)、胃腸炎(下痢、嘔気、嘔吐)	便	2015.9.25
EPEC(O18:H7)	70歳代	女	2015.9.10	発熱(37.5℃)、胃腸炎(下痢、血便、腹痛)	便	2015.9.25
EHEC(O103:H2 VT1)	0~4歳	男	2015.9.11	胃腸炎(下痢)	便	2015.9.25
EHEC(O103:H2 VT1)	0~4歳	男	2015.9.12	—	便	2015.9.25
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4歳	男	2015.9.15	気管支炎、連続性咳嗽	咽頭ぬぐい液	2015.9.22
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4歳	女	2015.9.18	百日咳疑	咽頭ぬぐい液	2015.9.23
<i>Salmonella</i> Typhimurium (O4:i:1,2)	70歳代	女	2015.9.15	—	尿	2015.9.29
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	5~9歳	男	2015.9.16	—	便	2015.9.25
EHEC(O26:H7 VT1)	30歳代	女	2015.9.1	無症状	便	2015.9.4
EHEC(O157:H7 VT2)	40歳代	男	2015.9.18	無症状	便	2015.9.24
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	5~9歳	男	2015.9.24	—	便	2015.9.30

5～9歳の男児、70代前半の女性からサルモネラ属菌が検出された。サルモネラ属菌には約2500種類以上の血清型があるが、宮崎県内では2008年から2014年にかけて約40種類の血清型が報告されている。また、この中にはペットとして飼育されている爬虫類が感染源となった比較的まれな血清型も確認されていることから、今後も発生状況や血清型の動向に注意していく必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状等	検出材料	検出日
アデノウイルス2型	0～4歳	女	2015.08.11	喘息様気管支炎、38℃、無呼吸発作	咽頭ぬぐい液	2015.09.25
単純ヘルペスウイルス1型	5～9歳	女	2015.08.12	意識障害、退行、39.1℃、咽頭炎	咽頭ぬぐい液	2015.09.25
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2015.08.21	ウイルス感染後の小脳失調疑い 38.6℃、口内炎、咽頭炎	咽頭ぬぐい液	2015.10.02
エンテロウイルスD68型 RSウイルス(再掲)	0～4歳	女	2015.09.11	急性肺炎、38.5℃	咽頭ぬぐい液	2015.09.25 2015.09.18
エンテロウイルスD68型 RSウイルス(再掲)	0～4歳	男	2015.09.14	集団風邪 39.6℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2015.09.25 2015.09.18
エンテロウイルスD68型	0～4歳	男	2015.09.14	集団風邪、39.4℃	咽頭ぬぐい液	2015.09.25
エンテロウイルスD68型	10歳代	男	2015.09.14	無菌性髄膜炎、40℃ 上気道炎(咽頭炎)、頸部硬直	咽頭ぬぐい液	2015.09.25
パラインフルエンザ1型	5～9歳	男	2015.09.17	意識障害を伴う急性上気道炎 39℃、熱せん妄	咽頭ぬぐい液	2015.09.24
RSウイルス ライノウイルス	0～4歳	男	2015.09.18	気管支炎、38.5℃ 上気道炎、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2015.09.24

○急性肺炎の乳児、風邪症状を有する乳児2名及び無菌性髄膜炎と診断された小児からエンテロウイルスD68型が分離された。そのうち2名は、RSウイルスとの重複感染であった。全国の検出数をみると、8月に4件、9月に7件報告されている。国内では2010年と2013年に流行しており、主な症状は呼吸器症状であるが、急性脳症例や心肺停止例でもウイルスが検出されている。また米国では、2014年にアウトブレイクが発生し、弛緩性麻痺あるいは脳神経機能異常など重篤例や死亡例も報告されている。今回、同じ時期に4名からウイルスが検出されている。このウイルスは9月をピークに夏から秋にかけて多く検出されるため、今後の発生動向に注視する必要がある。

○ウイルス感染後の小脳失調疑いの乳児の咽頭ぬぐい液からコクサッキーウイルスA6型が分離された。提出された検体は咽頭ぬぐい液のみであり、小脳失調との因果関係は不明である。

📊 全国第39週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第39週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	140例				
3類感染症	細菌性赤痢	3例	腸管出血性大腸菌感染症	96例	腸チフス	1例
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	4例	チクングニア熱	1例
	つつが虫病	1例	デング熱	7例	日本紅斑熱	1例
	レジオネラ症	39例				
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	10例	急性脳炎	4例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	3例
	ジアルジア症	1例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	23例
	水痘(入院例)	2例	梅毒	19例	播種性クリプトコックス症	1例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	風しん	2例	麻しん	1例

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比62%と減少した(祝日含む)。前週と比較して大きく増加した疾患はなく、ほぼ全ての疾患の報告数が減少した。

手足口病の報告数は7,562人(2.4)で前週比54%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.4)の約1.8倍と多い。宮城県(7.5)、大分県(5.9)からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第40週(9月28日～10月4日)

疾病名		第39週	第40週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	65	83	29	17	14	2		5		14	2
	定点あたり	1.81	2.31	2.90	2.83	3.50	0.67	0.00	1.25	0.00	3.50	2.00
咽頭結膜熱	報告数	8	21		5	2	6				8	
	定点あたり	0.22	0.58	0.00	0.83	0.50	2.00	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	38	56	12	5	9	7	5	5		13	
	定点あたり	1.06	1.56	1.20	0.83	2.25	2.33	1.67	1.25	0.00	3.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	154	293	73	66	13	23	57	21	6	20	14
	定点あたり	4.28	8.14	7.30	11.00	3.25	7.67	19.00	5.25	6.00	5.00	14.00
水痘	報告数	19	29	13	2	2			2		10	
	定点あたり	0.53	0.81	1.30	0.33	0.50	0.00	0.00	0.50	0.00	2.50	0.00
手足口病	報告数	37	38	11	1	4	3	4	3		10	2
	定点あたり	1.03	1.06	1.10	0.17	1.00	1.00	1.33	0.75	0.00	2.50	2.00
伝染性紅斑	報告数	15	14	8			5		1			
	定点あたり	0.42	0.39	0.80	0.00	0.00	1.67	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	23	36	11	4	7	1	2	6		2	3
	定点あたり	0.64	1.00	1.10	0.67	1.75	0.33	0.67	1.50	0.00	0.50	3.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	12	7	1		2	1		3			
	定点あたり	0.33	0.19	0.10	0.00	0.50	0.33	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	11	36		3	13		17	1		1	1
	定点あたり	0.31	1.00	0.00	0.50	3.25	0.00	5.67	0.25	0.00	0.25	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	20	50	24	17	9						
	定点あたり	3.33	8.33	8.00	8.50	9.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数		3	2			1					
	定点あたり	0.00	0.43	2.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～40週)

2類感染症	結核	162例(2)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	100例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	6例(1)
	つつが虫病	3例	デング熱	1例	日本紅斑熱	7例
	マラリア	1例	レジオネラ症	4例	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4例
	急性脳炎	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例
	後天性免疫不全症候群	14例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	2例	梅毒	4例	播種性クリプトコックス症	2例
	破傷風	7例(1)				

()内は今週届出分、再掲